

広島県「地域おこし協力隊・関係人口ミニサミット」議事要旨

(開催要領)

1. 開催日時：令和2年12月20日(日)13:00~15:00
2. 場所：TKP 広島本通駅前カンファレンスセンター
3. 登壇者：
総務省自治行政局 地域力創造グループ 地域自立応援課 課長 角田秀夫
徳島大学 総合科学部 准教授 田口太郎
島根県邑南町 地域みらい課 羽須美振興推進室 プロジェクトマネージャー 森田一平
総務省 地域おこし協力隊サポートデスク専門相談員 藤井裕也
岡山県真庭市 地域おこし協力隊員 4代目リーダー 西本浩史
島根県隠岐の島町役場 地域振興課 定住推進係 定住支援員 野一夢二
兵庫県丹波篠山市 地域おこし協力隊 コーディネーター 合同会社ルーフス 代表 瀬戸大喜
岡山県真庭市役所 総合政策部 交流定住推進課 主幹 小谷佳嗣
岡山県真庭市 協力隊 OB 同協力隊相談員 松尾敏正
兵庫県丹波篠山市 企画総務部 創造都市課 定住促進係 係長 垣内由起子

(プログラム)

1. 施策説明 角田秀夫
2. 基調講演「新型コロナウイルス感染症収束後の地域おこし協力隊や関係人口と地域づくりについて」田口太郎
3. 事例発表 島根県邑南町が取り組む 課題解決×関係人口 森田一平
4. トークセッション「地域おこし協力隊としての地域でのチャレンジ」
ファシリテーター 藤井裕也
パネリスト 西本浩史/野一夢二/瀬戸大喜
5. 自治体からの活動事例紹介
岡山県真庭市 小谷佳嗣
岡山県真庭市 松尾敏正
岡山県真庭市 西本浩史
島根県隠岐の島町 野一夢二
兵庫県丹波篠山市 垣内由起子
6. 参加者による自治体への質問コーナー
7. 閉会

1. 施策説明

地域おこし協力隊とは、都市地域から過疎地域等に移住いただき、地方公共団体が地域おこし協力隊として委嘱する事業です。隊員は一定期間地域に居住し、地域おこし活動に携わってもらう取組です。隊員の活動期間は概ね1年以上3年以下です。政府は、地方財政措置により、地方公共団体を支援しています。地域おこし協力隊の活動に要する経費は、1人当たり440万円を上限に措置します。その他、さまざまな措置で地方公共団体の取組を応援しています。移住まではいかなくとも地域に関わりたいという方々を関係人口と呼びますが、（協力隊の方々は）関係人口の皆さんや地域の方々と一緒に地域おこしをしています。

2. 基調講演「新型コロナウイルス感染症収束後の地域おこし協力隊や関係人口と地域づくりについて」

2022年、団塊の世代の方々が75歳を迎えることで、地域の体力は一段と低下する可能性があります。コロナ禍の収束、安定化とともに、地域活動をどう再スタートできるかが重要なキーワードになっています。今後、人口も減る中では「地域」を主語にしつつも「定住」している人だけでなく、様々な外部者の力を借りながら地域を運営していく必要があります。

関係人口をはじめとした外部の力や知恵を、どう使っていけるかということを考えるための準備をする。こういうことを働きかけていくことが、今、外から来ている地域おこし協力隊の皆さんの一つの役割なのではないかと考えています。

3. 事例発表 島根県邑南町が取り組む 課題解決×関係人口

邑南町は島根県のほぼ真ん中の山の中、広島県に接するところにあります。戦後7,000人弱いた人口が、今、1,400人を切る状況で、高齢化率も56%です。新しい活動を起こそうとすると、地域の住民だけではマンパワーも知恵も足りず、地域に関わってもらう関係人口を迎えて、地域再生に取り組んでいきたいと考えました。解決する課題に関心を持つ関係人口を地域へいざない、地域貢献に満足感を覚えていただくことになると、諦めかけていた住民もやる気を再生していく。そういった「面白い・関わりたい」という地域に変化したときに、人生の全てではなくても、一部でも過ごす場として、この羽須美地域を選んでくださる人が増えるではないかと思っています。

4. トークセッション「地域おこし協力隊としての地域でのチャレンジ」

①西本

岡山県真庭市の地域おこし協力隊4代目リーダーです。前職は北海道で教育公務員をしていました。今の活動は真庭市全域を担当しており、福祉がメインの活動で、障がい者の方

や高齢者の方と一緒にサロンで活動したり、地域の皆さんと一緒に空き家の改修をしたり、多分野で活動しています。着任してみて一番強く感じたのは、地域、行政、地域おこし協力隊という横のつながりが非常に強く、連携一体感、チームワークがいいなということです。

②野一

島根県の離島、隠岐の島町役場地域振興課定住推進係で、定住支援員として活動しています。神奈川県出身で、前職はゲーム会社でフリーランスをしており、隠岐の島町に移ってきても、リモートで東京のゲーム会社と仕事をしながら、地域おこし協力隊をしています。「ゲーム×地域振興」ということで、少し特殊な活動をしており、国境離島初のボードゲームカフェを開店しようと思っています。今年、世界的に有名なゲームとコラボ事業を行いました。それに代表されるように、まだまだ隠岐の島町はコラボできる余地があるので活用していきたいです。

③瀬戸

兵庫県丹波篠山市の元地域おこし協力隊でした。京都府出身で、神戸大学からファーストキャリアとして地域おこし協力隊を選びました。大学との距離は車で1時間ぐらいですが、通いながら協力隊をして、任期後は学習支援事業や、鍼灸師の専門学校に通っています。市の職員の方と毎月膝を突き合わせて議論しながら、地域おこし協力隊や、地域にとってベストな制度の運用は何なのかを探っているというのは、丹波篠山市の一つの特徴です。いろいろな方から信頼を得て、そこから常に質のいい情報が入ってくる環境がつかれるかが、事業を立ち上げる上では大事なポイントかなと思っています。

5. 自治体からの活動事例紹介

①岡山県真庭市 小谷佳嗣

岡山県の真庭市は、岡山県の北部、鳥取県との県境、中山間地域、山間部にあります。蒜山のジャージー牛という牛が、非常に濃厚な牛乳が取れまして、ジャージーヨーグルトや諸々乳製品が非常に有名なところでもあります。真庭ビジネスジャーナルといい、これこそ関係人口の構築をする一つのコンテンツですが、1泊2日の泊まり込みの合宿が1月30日に開催されます（※開催当時）。このようにいろいろな取組を積極的にやっています。

②岡山県真庭市 松尾敏正

真庭市は2014年に協力隊制度を導入したので後発型です。日々の動きを共有しながら活動を進めていくのが特徴で、何かするにしてもチームで動こうということがポイントとしてありました。私は初期メンバーですが、関わるなかで、行政の担当者が変わった際に運用方法が変わるなど、試行錯誤を続けてきました。今、制度導入から8年経ちますが、初期から運用方法を引き継ぎ、改善してきました。

③島根県隠岐の島町 野一夢二

私はゲームの専門家なので、隠岐の自然もアクティビティもうまく紹介することができませんが、日本の国境離島隠岐の島町にエンターテインメントの光をもたらし続ける活動をこれからも、ゲームで地域のために貢献していこうと思っています。

④兵庫県丹波篠山市 垣内由起子

丹波篠山市は、兵庫県の南東部に位置し、人口4万1,000人、大阪から電車、車で1時間程度、神戸、京都からは1時間半程度の立地にあります。コーディネーターがまちづくり協議会や市と連携し、隊員の活動や生活を支援しています。また、まちづくり協議会もカウンターパートを選任して、隊員の地域での活動や生活を支援し、隊員と一緒に地域づくりに取り組んでいます。

6. 参加者による自治体への質問コーナー

【質問】

協力隊の業務は自治体によりさまざまだと思うが、隊員を採用するにあたりどのような資質を求めていますか。

【回答：藤井】

起業を求めているところもあれば、地域支援を求めているところもあるし、いろいろなパターンがあります。ただ、行政や地域など、文化が違うところに行くので、環境をつくる力が必要だと思います。

【質問】

家族で移住を考えているが、そのような場合でも受け入れができますか。

【回答：瀬戸】

知り合いの協力隊の方で、夫婦一緒に協力隊になったという方もいらっしゃいますので、その辺りは臨機応変に対応可能だと思います。

7. 閉会

以上